

八所宮

宗像の吉武地区にある八所宮は、674年に創建されたと言われています。この神社には、4組の神々が祀られています。その中には、日本の島々を造った神や、九州北部を旅する神武天皇を守った神が含まれています。神武天皇は、日本の初代天皇だったと信じられています。

地域の伝説によると、神武天皇が、大和（現在の奈良）の地を征服するために日向（宮崎）の拠点を発ってこの地域を旅していた時に赤い馬に乗った神が現れました。この神は神武天皇を案内して、この地域を無事に通過させました。八所宮の古い絵馬には、この物語を描いたものがあります。

神武天皇を守った神々を祀るよう、第40代天皇である天武天皇（631～686年）が要請してここに神社が建立された、と言われています。八所宮は創建以来、皇族とそこに使える者たちを守る役割を果たしてきました。有名な武将にして政治家であり、織田信長（1534～1582年）が始めた16世紀日本の統一を完成させた豊臣秀吉（1537～1598年）は、1586年に九州の有力武将を制圧するために九州に来た際に、ここで勝利を祈りました。秀吉は、この制圧を成功させた後、八所宮にいくつかの宝物（刀など）を奉納しました。

八所宮では、秋季例大祭が200年以上にわたって行われています。10月の第3土曜・日曜に行われるこのお祭りは、江戸時代（1603～1867年）の装束を着た地域住民による夜の行列から始まります。地域住民は、提灯を持ち神輿を担いで、八所宮から釣川まで歩きます。神社の参道には食べ物の屋台が並び、お祭りの雰囲気盛り上げます。このお祭りの間には、他に流鏝馬、伝統舞踊、子ども相撲などが行われます。このお祭りは、日曜の深夜に幕を閉じます。